

第四問(現代文) 解答例

※第四問になるとやはり時間が足りなくなるのか、白紙答案も多く、部分点を得点できていない答案も少ない。その中で、満点ではないが得点できていた解答例をいくつか紹介する。

(一)

△高橋の写真は、これまでの写真が背景の反映によって際立ててきたものを解体し、その上で人間に現実の世界と対峙させるから。(3点)

△際立たされたものがないため、普段は目を向けられない膨大な現実に目を向けるようになるから。(2点)

(二)

△カメラが現実から特定のイメージを切り取ることで、現実を限定し、隔離し、際立てる一方で、カメラを通してしか現実が見られないこと。(4点)

△曖昧で連続した現実を静止画として凝結させること、あるいは裸眼が支配され、カメラを介在させることでしか現実を見なくなること。(4点)

(三)

△カメラはこれまで際立っていなかったものに焦点をあてることによってそれを際立て、際限のない差異化をつくりだしていく、ということ。(4点)

△写真とは必ず何かに焦点をあてて際立たせてしまうので、焦点をあてる対象を変えるたびに、新しく背景に押しやられるものが生まれるということ。(3点)

(四)

△高橋の写真によって浮上した現代消費社会の背景は、イメージ化であふれた現代に、際立たないものとして置き去りにされた現実そのものだという事。(3点)